



香港

ハーバーフロントのスカイライン、ネオンライトで輝く世界大手テックジャイアントの企業名、そんな象徴的な香港を飛び出して、この街に溢れるビジネスチャンスを探そう。

ロケーション: アジアやその他の地域を結ぶ架け橋 **会う人:** コーヒーショップ、ホテル、職場を変えたデザイナー達
功績: ビジネスを始めたり家族と住むのに安全な、万全な法制度と低い犯罪率 **訪れる場所:** おすすめの一日プラン
ライフスタイル: 注目されるクリエイティブなビジネス **マーケティング:** 視線を集める花のパワー



山に登る勇者たち
10 ページ



現地調査
13 ページ



守られる伝統
5 ページ



安全第一
11 ページ

2018年9月
116号

ビジネス
ブリーフィング



香港についてもっと知りたい方はこちら

ビジネスセンス

ビジネスだけではなく、
リラックスするにも、遊びにも最適。
すべてが叶う街が香港。

編集者：ジェームズ・チャンパー 共同編集者、
記事広告：ロージー・プラタ 記者：カート・リン、
ジャスパー・ウン、ジュン・トヨフク
クリエイティブディレクター：リチャード・スペンサー・
パウエル デザイナー：ジュリア・タグノリ
フォトディレクター：マシュー・ピーマン
フォトグラファー：リュウ・ジンヤア、リット・マ、
ステファニー・テン、ケネス・ツァン
イラストレーター：ジム・ウォン

絶えることなくビジネスの中心である香港。中国の南岸に位置し、人口740万人の現代的なこの街は、19世紀から自由貿易の国際貿易港として躍進を続けてきた。毎年、何千人もの起業家たちがビジネスのグローバル展開を目標に、ショップや事業所開設のため香港に足を踏み入れる。

1978年に中国政府が行った改革開放は東と西の架け橋としての香港の役割を強調させることとなった。40年経つ今も、香港は外国企業が中国でビジネスを行ったり、中国企業のグローバル展開を手助けする重要な役割を果たしている。製造工場を見つけるソーシングサプライヤーとして始まったものが、今では洗練された法律業務と、アジア最大の消費者市場に参入を計画する外国企業にとって信頼性のあるビジネス圏を提供している。

新たなインフラ整備と珠江三角洲の都市協力により、貿易のつながりはより統合されてきているが、香港はビジネスだけではない。最適なロケーション、効率のよい輸送接続、安全な環境などといったビジネスに適した条件は、生活する上でもこの上ない条件を備えていることになる。あとは香港への荷造りのみだ。



見所スポット：01 木 (元朗)

02 地元産の農産物 (新界)

03 Magnetic Asia、香港サイエンスパーク

04 小さな入り江 (西貢市) 05 Loveramics (灣仔)

06 Pirata Group (黄竹坑) 07 Watchbox (中環)

08 Fauve Radio (上環) 09 法律関連の中心地 (中環)

10 香港証券取引所 (中環) 11 The Nate (尖沙咀)

12 Integrated Fine Arts Solutions (葵涌)

13 The Mills (荃湾)

5つの新しい中国への接続：01 港珠澳大橋、55kmを結ぶ海上橋と海底トンネル 02 広深港高速鉄道、中国本土への高速接続 03 香園圍/蓮塘間の越境 - 深港東部通道7号線開通 04 飛行機とフェリーの合体チケットは、香港国際空港に着陸して珠江三角洲の5都市へのボートに乗り継ぎが可能 05 香港国際空港の第三滑走路建設に向けた干拓が進行中

グレーター・ベイエリアの魅力

世界最大級の人口密度と、生産性を誇る珠江三角洲のゲートウェイに位置する香港は、到着後、車で深セン市へ会議に向かったり、娯楽にフェリーでマカオへと足を伸ばすことが可能。このエリアには他に、工業地帯の東莞市や、のんびりとした珠海市、歴史的な広州市といった8都市がある。グレーター・ベイエリアとは、これら11都市をつないで、アジアのサンフランシスコ・ベイエリアになることを目指す、中国中央政府による大プロジェクトである。



目次

04 — 05

ロケーション：ようこそ

様々な業界から多国籍な人々が到着する香港は、恵まれたビジネス基盤である。

06 — 07

ロケーション：世界規模のサービス

戦略的なロケーションと中国とのつながりは、香港をアジアやその他の地域を結ぶ架け橋にする。

08 — 09

会う人

香港一のコワーキングスペース、レストラン、コーヒーショップやブティックホテル。アイデアを凝らしたデザインをデザインスタジオが紹介。

10 — 11

功績：数字で見る安全性

低い犯罪率と万全な法制度がある香港は、起業をしたり、子育てをするのに最適な場所。

12 — 13

功績：クリーンアップ

有機農場から持続可能な家具に至るまで、香港ビジネスのサクセスストーリー。

14 — 15

訪れる場所

次の出張の終わりに、おすすめの手軽な一日プラン。

16 — 17

ライフスタイル：視野を広げる

香港の音楽祭、アートフェアや文化は変化を遂げ、注目を集めるクリエイティブなビジネス。

18 — 19

ライフスタイル：創作クラス

会議の後は、この豊かな街にあられる色々な表情を探索。

20

マーケティング：ビジネスの誕生

花とアイデアを使って、注目を集める香港ビジネス。



HK/PART A

ロケーション/インバウンド

ようこそ香港へ

新規ビジネスから、
初めてのアジア拠点の設立まで、
香港は多国籍の来訪者を歓迎する。



1 2

Pirata Group

欧州連合

—サービス業—

「夢が実現しました」黄竹坑に設立した新本社と厨房で、そう語るのは31歳のスペイン人、マヌエル・パラシオ氏である。彼はイタリア人のビジネスパートナーのクリスチャン・タルポ氏と共に、Pirataレストラングループをここから運営する。彼らは当初、それぞれの家に皿を持ち帰って洗っていたが、そんな苦勞を免らせ、今では香港で8つのレストランを管理し、この1年で5店舗をオープンさせた。

展開を続けるレストラングループを運営することは肉体的にも大変であるが、パラシオ氏は湾仔とソーホー地区のホールをいつも行ったり来たりしながら、まるで暑さに気が付かないかのようにスーツに身をつつみ、笑顔で来客やマネージャー達に話しかける。

2012年、パラシオ氏はAqua Restaurant Group (タルポ氏との出会いとなった会社である) としてロンドンから香港に移った。その2年後に退社をし、2人の初めてのレストランであるPirataというイタリア料理店を立ち上げた。「自分達が本当に大好きなレストランを1つだけ経営するつもりでした」とタルポ氏は言う。「2つ目のレストランをオープンさせた



3

後に、グループ化を考えるようになりました」と続ける。2つ目のレストランはスペインのグリル料理で、The Optimist (楽道家) と名付けたのも意味がある。

「レストラン数とスタッフ数を倍にした、最初の拡大が一番大変でした」とタルポ氏は言う。それ以来、グローバル思考になった2人は日本料理とペルー料理を融合させたレストランのオープンや中国料理を取り入れたりした。「香港の人たちは、いつもチャンスをくれます」と持ち前の楽観的気質たっぷりにタルポ氏は言う。

Watchbox

永遠の名品

—小売業—

シンガポール人ビジネスマン、テイ・リアム・ウィー氏は、60歳の誕生日を1年後に迎える2017年にWatchboxを設立した。高級中古時計のオンライン取引プラットフォームを手掛ける米国の時計商Govbergと提携し、今年初めに香港でオフラインのショールームと修理センターの1号店をオープンさせた。「高額な商品を扱うため、クオリティーの高い顧客サービスを提供して信頼関係を築く必要があります」と語るテイ氏は、香港を「時計ビジネスの聖地」と呼ぶ。



4

(1) Pirataのイベントスペース、The Loft (2) 一休みに最適 (3) Pirataのスタッフ (4) Watchbox (5) ティ・リアム・ウィー氏 (6) ウォールデン・ラム氏 (7) The Mills (8) KEF Music Gallery (9) ポリウムを上げて (10) ティナ・ノーデン氏とConranのCEO、ティム・バウダー=リッジヤー氏



5

The Mills

他よりも一段と優れる
—繊維業—

香港繊維業の歴史が新世代のファッション起業家に受け継がれた形、それがThe Millsだ。かつての製紙工場の集まりは、Nan Fung Groupのオーナーにより、繊維業とテクノロジーを織り交ぜるベンチャー企業の拠点へと生まれ変わった。

香港人のウォールデン・ラム氏と米国人のベス・エスポネット氏によって設立されたUnspunは、最初に入居を決めた会社のうちの1社である。スタンフォード大学で修士号を取得中に知り合った2人は、デニムビジネスにおける環境に有害な面を取り除きながら、よりフィットするジーンズを提供することをビジネス目標とする。

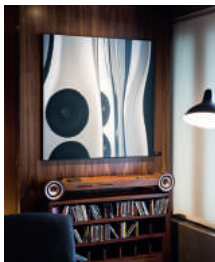
30秒の3Dスキャンで体型を撮影し、豊富な素材とカラーから選択してもらおう。在庫を抱えないため余ることのないジーンズは、地元の針子によって仕上げられ、納品まで2か月かかる。この時間を3D織機によって数時間に短縮させることが目標である。



6



7



8

ビジネス知識

「香港の人はとてもフレンドリーで、熱心。そしていつも新しいアイデアがあります。香港流のやり方から学べるものがたくさんあります」

出版事業、
マレーネ・タッ
シェン氏、
Taschen
常務取締役



10

Conran and Partners

大音量を体感
—小売業—

Duddell Streetにあるオーディオ愛好家のためのスピーカーショールーム、KEF Music Galleryほど騒がしい店はない。

この店は、Conran and Partnersによってデザインされ、昨年オープンしたクラブハウス・スタイルのショップ。1961年にBBC（英国放送協会）の電気技師により設立されたスピーカーブランドのKEFは、数十年後の1992年、所有権が香港に移行されたが、英国との提携は継続されている。

アジア大陸全土にて、25年の間プロジェクトを手掛けてきたロンドン拠点のデザイン事務所は、初の海外事務所設立地として今年、香港を選んだ。

「私たちにとって、香港でのプレゼンスは重要です。すべてのプロジェクトの初めから終わりまで、顧客と接する機会を得る事ができるからです」と、自分でデザインしたKEFのショールームで座りながらティナ・ノーデン氏は語る。



9

マサト・タニ氏に質問

Tokyo BaseのCEO
—小売業—



2007年に設立された日本のファッション小売業、Tokyo Baseは、日本全国22店舗にて約200の国内ブランドを展開。CEOのマサト・タニ氏は、香港にTokyo Base海外進出の最初の拠点を設立し、2017年に銅鑼灣でスタジオをオープンして、John Undercover、Lad Musician and Attachmentなどのメンズブランド並びに自社ブランドを置く。Fashion Walkでの小売業仲間としては、フラボア、ツモリチサト、コムデギャルソン、Y's by Yohji Yamamotoなどといった日本ブランドがあげられる。

なぜ香港を選びましたか？

将来、中国が大型市場になることを踏まえ、一流のアジア都市での拠点が必要でした。台湾、ソウル、シンガポールではなく香港を選んだ理由は、高い宣伝効果と活気づくファッション界です。日本に店舗を所有していますが、香港にプレゼンスがある方が、中国への宣伝効果はより高くなります。

店舗の設立は簡単でしたか？

一度始めてしまえば、言葉の違いにもかかわらず、まったく難しくありませんでした。日本から、ショップマネージャーを筆頭に優秀なスタッフを4名派遣して、香港ビジネスを運営しています。地元の優秀な人材確保とファッション小売業界での仕事を奨励するため、香港雇用のスタッフに日本の給与と同額を支払うことを決めました。

どのようなビジネスチャンスがありますか？

最初の店舗オープンの約6か月後に、United Tokyoという店舗をオープンしましたが、以前と同じ不動産業者がまた同じく銅鑼灣にあるこの2番目の物件も紹介してくれました。新しい申し出が香港大手開発業者から入ってきていて、北京市や上海市からも手ごたえのある関心が寄せられており、正しい決断をしたと確信しています。香港ではだれもが平等に扱われ、純粋に結果によって評価が下されます。

世界規模のサービス

グローバル貿易の中心という戦略的な
ロケーションと中国との密接なつながりによって、
香港はアジアやその他の地域を結ぶビジネスの架け橋となる。

Tai Ping

その日を摘め
— 製造業 —

マーク・ウォーガン氏は2017年の終わりに香港に移り、高級カーペットとラグ製造業Tai PingのCEOとなった。先代がニューヨークを拠点にしていたため、自宅に近い場所でビジネスを成長させることに焦点をおき、現在の売上高6500万米ドル（5600万ユーロ）を2倍にすることを目標とした。「欧米には簡単に手に入る成功が豊富にあります。最大の成長を狙えるのはアジアです」と、Tai Ping従業員の大半である780名が拠点とする廈門市の新しい製造工場で、54歳の英国人は語る。

ウォーガン氏が5月に正式に開所した廈門市の工場は、フランス人建築家のジャン＝マルク・サンドロリーニ氏によって設計された。総工費わずか3800万米ドル（3300万ユーロ）で中庭を囲むように建てられた2階建てのビルは、この香港の会社を大きく変化させた。昨年、伝統的なハンドタフトのラグとカーペットに集中するため、同社の機械織り事業を売却。「Tai Pingの魂は手作業に宿っています」と、香港海洋公園に納品する青いラグを検品しながらウォーガン氏は言う。Tai Pingの手工芸品がパリのブティックや、モナコのオテル・ド・パリ・モンテカルロといった高級ホテルを美しく装飾し、北京のザ・ペニンシュラでは、今日まででTai Ping最大のカーペットが華を添える。



5

- (1) ヤーンズプール
- (2) ゆるぎない集中心力
- (3) 装飾された床
- (4) 間近でじっくりと
- (5) Tai Pingの中庭
- (6) エスプレッソをダブルで
- (7) セラミックの色彩
- (8) Loveramicsのカップ
- (9) 西九龍駅
- (10) 格好のよい階段
- (11) 曲線と角度
- (12) 街のベンチ



Tai Pingの歴史は1956年に社会的事業として始まり、腕のいい中国からの移住者が香港で雇用された。1992年には製造の大半を中国に移したが、従業員の健康を第一に考える姿勢を保ってきた。高級ブランドでは、倫理的な調達 (Ethical Sourcing) をしていることが不可欠であり、検品は言うまでもなく基本中の基本である。「清潔に保つことに最大の努力を払っています」と語るのは、アジア、オーストラレーシア、欧州、米国に及ぶ工場を監督を務めてきたベテランのカーペット職人。「私たちの染色工場は、世界最先端です」

今日の午後には、新規顧客として見込んでいるブラジルの小型ジェット機メーカーのエムブラエルがウォーガン氏を訪問する。ライバルのガルフストリームやボンバルディアは既に獲得済みである。Tai Pingの中心的社業として、グローバル大手企業のインテリアを美しく彩ってきたが、将来的成長は住宅にあり、Tai Pingは時代と共に進んでいる。今日では、ラグは事業の70%以上を占める。「良いものに妥協をしない人がいる限り、Tai Pingは求められ続けます」とウォーガン氏は言う。



6



7 8



Loveramics

ざわめき立つコーヒービジネス
— 窯業 —

Loveramicsの中核にあるのはコーヒー文化だと裏付けたのは、昨年、この陶磁器ブランドの創始者ウィリアム・リー氏が、店舗内に設置したコーヒーバーである。2008年にリー氏が夫婦でスタートさせた現代的な家庭用品ブランドは、コーヒーショップとレストランの世界的なブームを受けてビジネスは成長し、今では売上の半分以上を占めている。色鮮やかなLoveramicsのカップは、米国ブルックリンにあるコロンビア産コーヒー豆の焙煎店Devociónから英国のHas Beanに至るまで世界中で、カプチーノやフラットホワイトを入れて登場する。「香港は世界の中心という素晴らしい位置にある」とリー氏は言う。



12

Cityplus

お座りください
— 家具業 —

ケビン・リャン氏は毎週、200名の従業員に会うために香港から珠海市までフェリーで移動する。新蒲崗の本社から中国の沿岸都市にある工場までの2時間の出張によって、世界中100都市以上の場所に納品されることになるストリートファニチャーの製造を間近で管理することができる。Cityplusは、バス停のブースや駅の案内板からシェア自転車の駐輪ステーションといった様々なものを手掛ける大手サプライヤーである。

Aedas

急成長中
— 建築業 —

グローバル建築事務所のAedasには、今年オープン予定のインフラ・プロジェクトが2つある。西九龍駅は、香港と中国の広範な高速鉄道路線を結び、香港口岸人工島 (HKBCF) は、珠海市とマカオから香港を隔てる河口に架かる世界最長の海上橋と海底トンネルの入り口となる。「私たちのプロジェクトの3分の2は中国です」1983年にHSBCビルに取り組みため香港に移住した創業者のキース・グリフィン氏は話す。以来、Aedasは香港、シンガポール、ドバイの輸送インフラを設計している。「世界の建築構造の大半が中国にあると言えます」

ビジネス知識

世界で最も利便性が高い空港の1つは香港空港だろう。長い行列の心配をせずに、出発時刻の1時間前に空港に到着すればいいのだから

サービス業
ジェイソン・コー
エン氏
CE LA VI
共同創業者



9



10 11



ローラ・チャ氏に質問

香港証券取引所会長
— 金融業 —



5月に就任したローラ・チャ氏は、香港証券取引所における初めての女性会長で、127年の歴史を持つこの証券取引所は変革の年を迎えている。大規模な規制改正により、IT企業の創業者は経営の実権を引き渡すことなく会社を上場することができるようになった。中国のスマートフォンメーカーXiaomiは7月に、このデュアル・クラス・ストック (Dual-Class Share) という仕組みを活用した。

デュアル・クラス・ストックを許可するという決定の重要性は？

この25年間で最大の改正で、ここに来

るまでは長い道のりでした。4年前、デュアル・クラス・ストックを許可しなかったために、大手上場企業の1社であるAlibabaを失いました。以前は米国でしか許可されなかったものが、今では企業が選択できるようになりました。

国際舞台における香港のセールスポイントは？

香港は東洋と西洋の間のゲートウェイ。ただつながりを提供するだけではなく、付加価値も提供します。その上、グローバル投資家にインフラを提供して、中国企業に資本を供給します。今では中国の投資家が参入を希望し、海外投資をしています。世界第2位の経済大国のすぐそばに位置する香港は、最高に理想的な場所と言えます。

H K

会う人/香港

壁と壁

プロジェクトを1つ1つ丁寧に手掛けながら、
香港を美しく着飾る。香港一のコワーキングスペース、
レストラン、コーヒーショップやブティックホテル、
アイデアを凝らしたデザインをデザインスタジオが紹介。

最上級を求めて

コワーキングプロバイダーの『TheDesk』は、『Toby Ng Design』と肩を並べて働く

コワーキング会社のTheDeskは3月、銅鑼灣に3番目のスペースをオープンした。このビジネス拡張の中核となったのは、競争の激しいこの業界において一段と人目を引く同社のビジュアルアイデンティティだろう。テーブル2台が組み合わさったD型のロゴは、インクルーシブな地域社会の作成、メンバー同士の交流だけでなく、隣接する高層ビルにある既存企業との交流といった同社の特徴を明確かつ幾何学的に表現している。

このロゴは香港で今人気を集めるトビー・ウン氏のデザインによるものだ。「彼以外は考えられなかった」と語るのはTheDeskの共同創業者オスカー・ヴィンヒュース氏、「最終結果は非常にシンプルでしたが、とても時間がかかりました」ウン氏が通常かける時間の倍である8か月をかけて、ようやくふさわしいデザインに仕上がった。「クオリティに妥協をしなくなかった」と言うのは、締め

切りを設定しなかったCEO兼共同創業者のトーマス・ファイ氏である。TheDeskの最初の拠点は2016年、試験的に西營盤でオープンしたが、ファイ氏は、新しいロゴの準備が整うまでは、建築家がデザインした仮のロゴを使うことに決めた。

2017年7月に公表された新しいロゴの効果は上々であった。新たな5か所の拠点が2018年に向けて計画され、翌年の上海と深セン市への参入が決まった。「私たちの新しいアイデンティティは、今後のビジネスの展望図に新しいピースを運んできました」とファイ氏は語る。

デザイン事務所: Toby Ng Design
専門分野: グラフィックデザイン
ロケーション: 511 Queen's Road West, Sai Wan
社長: トビー・ウン氏
設立: 2014年
デザイナー: 6名
ウェブサイト: toby-ng.com
その他のプロジェクト: Hotel Stage (油麻地)
写真: オスカー氏、トビー氏、トーマス氏



会う人

**アートな落書き**

エルサ・ジャン・ド・デュ氏によって『Uma Nota』に描かれたストリートアート

夕方に絶え間なく人が集まる光景は、Peel StreetにあるレストランUma Notaでは日常的なこと。でもレストランのブラジルと日本のフュージョン料理を味わうために集まっている人ばかりではない。10年前に香港に移住しアトリエを所有するフランス人アーティスト、エルサ・ジャン・ド・デュ氏が建物の正面に描いたアートの写真を撮るための人もいる。

Uma Notaを経営する兄弟のアレクシス・オフエ氏とローラ・オフエ氏は、香港のソーホー地区に、カラフルなサンパウロの街並みの雰囲気を取り入れるために外観にペイントすることを決めたのだが、花の頭飾りとゴールドのイヤリングをした笑う女性の横顔、孔雀の羽とオオハシのアートは、競争の激しい香港のダイニングシーンにおいて、巧みにその存在を際立たせている。国際的な注目も集め、Uma Notaのバリ店が計画され、地元のレストランがこのクリエイティブなタイアップをフランスの首都に取り入れたいと希望している。

アトリエ: Elsa Jeandedieu Studio
専門分野: 壁画、壁アート、塗装仕上げ
ロケーション: Unit D, 11F, Man Lok Building, 89-93 Bonham Strand East, Sheung Wan
社長: エルサ・ジャン・ド・デュ氏
設立: 2015年
デザイナー: 3名
ウェブサイト: elsajeandedieu.com
その他のプロジェクト: Pure Yoga (銅鑼灣)
写真: エルサ氏とローラ氏

ビーチ気分で

『Little Cove Espresso』と『Studio Adjective』がオーストラリアのビーチ気分を香港のコーヒーショップに

朝の目覚ましにコーヒーを飲む人は多くいるが、このLittle Cove Espressoでは、ゆったりとリラックスした空間を提供する。数年間をメルボルンで過ごしたアダム・キース氏と彼の妻のジェイド氏は、フラットホワイトやつぶしたアボカドをのせたパンだけではなく、香港では馴染みのないビーチライフスタイルに浸れるカフェを香港でオープンしたいと願っていた。

2015年、キース夫妻は、生まれ育った沿岸地域の西貢市にある小さなカフェを引き継ぎ、今年には、より大きな近くの店舗に場所を移す。より高くなった天井と前庭のある新しい店舗だが、漂ってくる潮風の香りと丘に囲まれた景色は以前のものである。夫妻はウイilson・リー氏とエミリー・ホ氏という夫妻のチームを探し出し、大きくなったLittle Coveのデザインを依頼した。「ウイilsonとエミリーもオーストラリアに住んでいたことがあり、のんびりとしたメルボルン人の感じをとっても理解してくれるのです」



デザイン事務所: Studio Adjective
専門分野: インテリアデザイン
ロケーション: 8F, 8 On Wo Lane, Central
社長: ウイilson・リー氏
設立: 2016年
デザイナー: 4名
ウェブサイト: adj.com.hk
その他のプロジェクト: Noc Coffee (西營盤)
写真: エミリー氏、ウイilson氏、ジェイド氏、アダム氏

3人組で作る

ブティック店舗不動産開発業『District 15』と『Charlie & Rose』と暮らしを作る

サービスアパートメント建設業として始まったDistrict 15が、そのビジネスを小売・サービス業へと移行させた10年後、創立者のディニッシュ・ニハールチャッド氏とアレックス・ベント氏は、新たに71部屋のアパートメントThe Nateをオープンさせ創業当初の業界に戻ってきた。尖沙咀のNathan RoadにあるThe Nateは、10月に最初の居住者を迎え入れる。共有施設と共有スペースを設けたコリビング(Co-Living)アパートメントとして香港で急成長中の市場に、The Nateで参入する。

The Nateをきっかけに、Charlie & Roseのベン・マッカーシー氏もまた戻ってくる。オーストラリア人の同氏が最後にデザインした居住スペースは、ロンドンでCandy & Candyが開発したOne Hyde Parkで、その直後に香港へ移って独立し、料飲業を中心とするCharlie & Roseを立ち上げた。District 15のレストラン店舗の1つで、空間デザインを手掛けたことで両氏は出会う。「彼らが作る空間は気取りがなくて居心地がよいので、ぜひCharlie & Roseを使いたかった」とベント氏は言う。

各部屋のレイアウトはそれぞれがユニークである。すべての部屋には共通して、テラゾーと真鍮が細部の装飾に使われ、ミッドセンチュリーのキャビネットを思わせるウォールナット色のベニヤ板が使われている。そして、パステルカラーのバスルームは、70年代の香港を思わせる。専用のバスルームを設置したところに、この3人組の1歩踏み込んだコリビングに対するアプローチがある。大人のための学生寮ではなく、くつろぐための部屋がここにある。「他の50人の入居者とジェンガをした人達ばかりではないですから」とマッカーシー氏は言う。このアプローチが続く限り、イベントを企画したり、九龍公園を見下ろすルーフトップでダンスをする必要はなさそうだ。テクノロジーの使用はいつも最小限である。例えば、高性能のオーディオ機器は設置する



が、音声認証ドアロックは設置しない。「初期段階で慎重に考慮した結果、ごまかしたり、気をそらしたりといったありふれた戦略は使わないことにしました」と語るニハールチャッド氏。「他はシンプルにして、デザインを売りにしたいのです」

デザイン事務所: Charlie & Rose
専門分野: インテリアデザイン
ロケーション: 2F Wing Hing Commercial Building, 16 Sutherland Street, Sheung Wan
社長: ベン・マッカーシー氏
設立: 2011年
デザイナー: 4名
ウェブサイト: charlieandrose.com.hk
その他のプロジェクト: Stockton Whisky Bar (ソーホー地区)
写真: アレックス氏、ベン氏、ディニッシュ氏



HK / PART A

功績 / 安全性

数字で見る 安全性

低い犯罪率と万全な法制度など。
香港は起業をしたり、
子育てをするのに最適な場所。

Civil Aid Service

赤いユニフォームのヒーロー達
— 救急業務 —

副業だけを言えば、2番目または3番目の仕事としてCivil Aid Serviceで働くことは、かなり上位を占める。香港の医者やエンジニアの団が副業として、山に登って捜索をしていたり、救助したりする姿をよく見かける。マック・タットーミング氏は、昼間は評価機関の公務員であるが、週末は作戦部の司令官となる。「この仕事で視野が広がり、めったにできない経験をたくさん得ることができました」とマック氏は話す。彼はこの肉体的に大変な政府機関での仕事を1984年に始めた。「自分が健康である限りは、退職する予定はありません」と付け加えながら、土曜朝のトレーニングで断崖にアブザイレンを垂らして準備を進める。

屋外トレーニングと任務には、3,600名の有力な補助部隊（見習いの青年部隊も約同数いる）は赤の制服を着用して、専門救急サービスの負担軽減のために励んでいるが、この仕事は単なるオフィスの事務処理ではない。この救急部隊でマルチタスクをこなす隊員には、季節的な洪水から、外国からの要人の



来訪やイベントによる群衆の整理に至るまで、あらゆることが求められる。その他に、丘陵地での任務や政府のヘリコプター救助班の補助に向けてトレーニングを受けたMountain Search and Rescue Companyと呼ばれる専門班がある。

Civil Aid Serviceのほとんどの隊員はパートタイムで、すべての隊員は毎年60時間のトレーニングが義務づけられている。中には、やる気のある隊員がその倍のトレーニングをすることもあるという。最初は民間防衛班として1950年代に始まった、香港政府の1部門であるこの部隊は、毎年300名の新入隊員が集まり、体力と敏捷性の試験が行われる。「すべてのトレーニングは英国空軍の救助方法を基に行われています」と説明するのは、業務およびトレーニングの責任者代理を務めるボブスコ・チャン氏。彼は約100名程度しかいない常勤隊員の1人である。



- (1) アブザイレンを使って
- (2) Civil Aid Service
- (3) Fire and Ambulance Services Academy
- (4) 熱さとの闘い

シティライフ

「香港には小さな公園があちこちにあります。ぜひ中環にある百子里公園を訪れて、香港の隠れた宝石を発見してください」

コワーキング業
コNSTANT・
テダー氏
The Hive 創業者



3

Fire and Ambulance Services Academy

炎との格闘
—救急業務—

スプロール化する將軍澳のウォーターフロントで、消防隊と救急医療隊が最先端のトレーニング施設で演習を行う。

香港独自の地形と多岐にわたるインフラに合わせた28棟のビルがあり、演習用作られた飛行機やコンテナ船、地下鉄の駅の横に高層ビルが立っている。これは世界でも有数の利用者数がある港や海港、そして大量輸送交通機関で起きる事態に備えるためである。

香港最新のFire and Ambulance Services Academyは、35億香港ドル（3億8100万ユーロ）をかけて2016年に開所した。九龍の中心部から東に20分の場所にあり、以前の5倍の広さとなる新施設は、安全に関する素晴らしい記録の維持を重要視する香港を体現している。

香港はまた、国際会議を開催したり、中国、シンガポール、ベトナムからの使節団を迎え入れたり、近隣地域と知識と経験を共有している。「知識の共有は消防において大変重要です」と、香港消防署の次長アンディ・イェン氏は言う。

Legal hub

規則どおりに
—法律業—

香港の素晴らしい法律業分野は、数多くのビジネスをもたらすが、受け入れ態勢も整ってきたようだ。香港政府は、律政司や数々の国際法律事務所隣接する歴史的建造物の2棟を、多様な国際組織やNGOの拠点に改造する。この新たな法律業務の拠点は、フランス宣教師の邸宅、またはロシアの領事館などとして、多国籍そして多様に使われてきた中環の高層ビル群と緑に囲まれて建つ3階建ての旧フレンチ・ミッション・ビルディングを組み入れることとなる。

来る2020年には、ハーグ国際私法会議のアジア太平洋本部が最上階に入る。125年の歴史を持つこの機関は、国際協定による越境貿易や海外投資を円滑化する。



4

進行する歴史的建造物の保存再生

香港は、植民地時代の建造物をクリエイティブに活用する方法を引き続き模索する。過去10年の主な足跡を以下にあげる。

01

Tai Kwun Centre for Heritage and Arts

ヴィクトリア朝時代の建造物で、刑務所や治安判事裁判所があった旧警察本部跡地。現在は、歴史遺産と現代アートの施設である。保存再生された最古の建造物は1864年にも遡る（詳細は18ページ）。

02

PMQ

Police Married Quartersの略で、ソーホー地区にあり、1950年代には既婚者用の警察官宿

舎で、当時は警察本部（現Tai Kwun）勤務者の特典であった。現在は、デザイン事務所、ショップ、レストラン、展覧会場やイベント会場が並ぶクリエイティブ産業のハブへと生まれ変わった。

03

SCAD

米国の大学The Savannah College of Art and Designは、北九龍裁判法院をアジア初のキャンパスに選んだ。1960年代の法廷は講堂として使われている。

04

Tai O Heritage Hotel

国際空港を超えたランタオ島の西端に位置する、19世紀の警察署を保存再生させたホテル。伝統的な高床式住居のホテルは、永遠の漁村である大澳を訪れる者に、くつろぎの空間を提供する。





HK/PART B

功績 / 持続可能性

クリーン アツプ

有機農場から持続可能な家具に至るまで、香港ビジネスのサクセスストーリー。

Tree

持続可能な成長

一家具業

香港証券取引所での資金調達には国際的複合企業だけではない。2018年に上場した地元の家具メーカーTreeは、株式公開で得た資金2,200万香港ドル(240万ユーロ)を使って香港における小売業としてのプレゼンスを高めた。「IPOによって、名が知られていない場所に展開する資金が得られます」と、社長のケイト・バビントン氏は新界の西に位置する元朗にオープンしたTreeの新店舗で、リサイクルしたインドネシアチーク材のテーブルに腰掛けながら語る。「店舗でTreeの商品を実際に触れることを希望されます」

2005年に香港で創業したTreeは、地球に優しく、倫理的な方法で調達された純木材の家

具の代名詞となるが、新規開発不動産のモデルルームをスタイリングする事業のみが成長した。「8年前に始めた当時は、外国人居住者をターゲットにしていたので、たくさんのスタッフが英語を話しました」と、香港生まれで英国人の両親を持つバビントン氏は続ける。「でも本当に変わりました。今ではスタッフは全員、中国語の標準語か広東語を話さなければなりません」

英国のThe Body Shopでキャリアをスタートさせたバビントン氏は、晩年のアニータ・ロディック氏の指導のもとで、製品やアクセサリーのデザインを学ぶ。ソーシング管理のため、香港に送られた後、友人でTreeの創業者でもあるニコール・ワックリー氏の切なる願いで同社に加わった。最近、ワックリー氏はこのビジネスを売却し、現在は米国のライセンスとしてシアトルで2店舗を運営している。Treeはまた、香港の本社が監督する中国にある販売代理店2店舗でも販売されている。「Treeはスタイリングと環境管理に強いこだわりを持っています。店舗に入った瞬間、お客様に木の香りを届けたいのです」とバビントン氏は言う。

ビジネス拡張ということは、現在68名のスタッフが、本社から店舗に至るまでのスタッフの雇用を盛んに行っているということである。そのため、常にスタッフ研修がバビントン氏の頭にある。同氏のTreeに対する情熱は、アジア中にある製品工場を頻繁に訪れることに根差している。これを伝える方法を模索中である。「2年前、ショップスタッフ10名を連れて、インドネシアの工場を訪れました。彼ら達の目で見たくかったからです」と話すバビントン氏。「そして彼らはTreeの大使となって帰国しました。なぜなら製品を真に理解して話ができるのですから」香港の小売業と観光業が成長の兆しを見せる中、Treeの収益も上昇している。今年、2店舗が新たにオープン予定で、バビントン氏は良い機会に恵まれれば、海外展開も視野に入れている。「数多くのTree店舗を持つことが目標ではなく、店舗を通してTreeブランドを成長させていくことが目標です」



2

Mazu

溺れないで泳ぐ
—水着ブランド—

元ラグビー選手のアダム・ラビー氏は、2014年に水着ブランドMazuを立ち上げ、起業家としてファッション業界に飛び込んだ。ブランド名は香港の漁業と海事遺産を称え、中国の海の女神の名前から取ったのだが、そのご利益なのか、ビジネスは順調である。現在Mazuは、アジア中に30以上の取扱店を持ち、毎年2桁の成長を見せている。生粋の香港人であるラビー氏は、故郷の香港と周囲の海にも還元する。Hong Kong Dolphin Conservation Society特別エディションのスイムパンツをデザインし、その収益の10%を寄付している。



3

ビジネス知識

「3分の2の時間を海外で過ごす私は、香港の豊かなシテイライフ(と食べ物)がいつも恋しくなります」

テクノロジー業
テレンス・クウォック氏
Tink Labs 創業者

- (1) Tree店舗の商品
- (2) Treeのケイト・パビンソン氏
- (3) Mazuのアダム・ラビー氏
- (4) 現地調査
- (5) 植物の生命
- (6) 屋内農場
- (7) 収穫を待つ
- (8) ラファエル・デ・レイ氏
- (9) 品数が豊富



4



5

Homegrown Foods

種を蒔くこと

—農業—

米国ニュージャージー出身のトッド・ダーリン氏に香港で長続きする飲食店を作る才があるのは、湾仔のStone NullahからElgin StreetのPosto Pubblicoに至るまでを見れば明白であるが、同氏ビジネスの持続可能性は、継続性と香港島の境界をはるかに超えている。Posto Pubblicoを2009年にオープンした翌年、39歳の同氏は自分のレストランにオーガニック食品を調達するため、そして香港の地元農家と家庭をつなげるためにHomegrown Foodsを立ちあげる。「ビジネスは安定して成長しています。家庭で地元産の食品が料理されている証です」と新界にあるサプライヤーを訪問中のダーリン氏は言う。



6



7

Edgar

無駄がなければ不足もない
—食品小売業—

プラスチック削減を促進するビジネスが、海に親しみを持つ島社会の香港で関心を集めている。「あまりの成長ぶりに驚いています」と語るのは、スイス人の量り売り食品店創業者ラファエル・デ・レイ氏。尖沙咀にあるショッピングモール内の売り場で販売を始めて1年足らずで、2番目の直売店で最初の単独店舗を湾仔でオープンする。デ・レイ氏は、食品販売にとって実店舗を持つことは不可欠だと考える。顧客との信頼関係を築くために、そしてゴミを減らすためにである。



8



9

デビット・イエン氏に質問
Green CommonのCEO
—食品小売業—



3年前にデビット・イエン氏によって提案され、Green Monday (グリーンな月曜日) として知られる週に1度ベジタリアンになるという提案は、食料品店という形になり、環境を意識した商品を売り上げている。42歳の同氏が3名のスタッフと始めたビジネスが今では200名以上のスタッフと6店舗の販売店、そしてレストラン1店舗を持つビジネスに成長した。

このビジネスを始めたきっかけは？

アル・ゴア氏の『不都合な真実』が、グリーンな生活の支持者になったきっかけです。ベジタリアンになって17年になりますが、始めた頃は選択が限られていて、買物や外食を難しくしていました。しかし、環境を考える都市のみが、先進経済に残された未来です。だからこそ私は、香港でこの問題に取り組む先導者になりたかったのです。

一日で巡る香港

香港に行く予定なのに湾仔と柴湾の違いが分からないのなら、
リラックスしてこの旅程に身を任せてみよう。
次の出張の最後に、手軽に組み込める1日プランだ。

06:00

地元の色とスタイルと共に、香港の中心部からスタート

きっと香港訪問の目的は湾仔のHong Kong Convention and Exhibition Centreで開催されるイベントのためである可能性が高い。アート・バーゼルからワインや時計の展示会までがそこで行われるからだ。利便性に妥協せずにスタイリッシュな雰囲気を選ぶならThe Flemingに宿泊しよう。香港に無数にある屋根付きの歩道がアクセスを楽にする。



16か月間の改装を経て、新しくデザインされた66部屋のホテルは、昨年リニューアルオープンしたばかり、香港の最もカラフルなエリアの中心にある。

07:00

朝の丘への散歩は、一日の良いスタートになる。

香港の朝は早いので独りぼっちにはならない。



朝のランニングに間に合う時間に目覚めたのなら、Wan Chai Gap Roadを探してBowen Roadに続く道を走ろう。木に覆われた曲がりくねった道は静寂で、ランチミーティングや電話会議の前の頭をスッキリとさせてくれる。金鐘と中環の上に広がる丘陵を見ながら、香港が手に届きそうに感じるだろう。4キロ続くBowen Roadは、1メートル間隔に出口があるが、往復して昨夜のお酒を汗に出すのもいいだろう(香港は夜更かしである)。

08:30

スイーツとカフェインで、目覚めよう

The Flemingに戻る途中、コーヒーショップが軒を連ねるSwatow Streetの袋小路でコーヒーをテイクアウトしよう(おすすめはThe Cupping Room)。カップを片手に道を進み、Tai Wong Street EastにあるBakehouseに行き、ペストリーを1~2個ピックアップしよう。フランス直輸入の小麦粉を使って店舗で焼き上げるデニッシュとクロワッサンは、もしまだオープンの中でも待つ価値はある。フォーシーズンズの元パティシエ、グレゴア・ミーショー氏が今年初めにオープンしたこの店は、5年間かけて作り上げられたのだから。

10:00

香港の新聞を一読

街の音が聞きたくても広東語が話せないのなら、沿道のニューススタンドで『South China Morning Post』を買おう。記事で名高いこの新聞社は、新しいビジュアルアイデンティティとスタイリッシュな編集室を今年初めに公表した。帰りの飛行機用の読み物が必要なら、東京からコペンハーゲンまでの個人出版物を揃えるごんまりとした書店Mosses行こう。ここは深水埗のBook Bと同じチームが手掛ける書店で、アートギャラリー Odd One Outの裏というこの店のロケーションにふさわしい写真集のコレクションが並んでいる。どちらの店も見つけにくいので、向かいにあるThe Monocle Shopを目印にしよう。

12:00

飲んで、食べて、道にこぼしても大丈夫

香港では多数の国際的なホテルが、お手頃なランチタイムを楽しませてくれる。しかし、もう少しカジュアルなセッティングの路面店なら、Francisに行こう。到着は正午をお勧めする。最近オープンしたこのイスラエルのレストランは予約を受けない。そのため、すぐ行列が外にできる。シェフのアッシャー・ゴールドステイン氏が作る羊の首肉のラグーからパブリカとスイートポテトなどすべて、彼が子供の頃テルアビブで食べた思い出の味ばかり。外の階段で席を待つことになったら、よく冷えた白ワインをオーダーしよう。外で飲めるのも香港ならではの。

13:00

A地点からB地点に移動して、海も渡ろう

香港内の移動はスピーディで効率がいい。その上、大多数が公共交通機関を利用するので環境にも優しい。これは広範に及ぶ MTR鉄道路線のおかげだが、もし急いでいないのなら、



ゆっくりとしたフェリーと風変わりなエスカレーターを使って屋外の香港を楽しもう。中環に向かいたいので、ぶらぶらと歩いてJohnston Roadに行き、香港で一番古い交通機関である香港トラムに乗ろう。150台を超える2階建ての路面電車（または鈴の音にちなんで『ding dings』と呼ばれる）は、香港島北側の繁華街を走り、今ではバンパーについた大きなスマイルが目印になっている。Pottinger Streetで降りたら、香港小売業の大動脈であるQueen's Road Centralへ歩いて行こう。

14:00

最先端の現代アートと珍しい本に出会おう

買い物は香港の大きな魅力だが、じっくりと考えた買い物をしたいならH Queen'sに行こう。今年初めに、国際的なギャラリーのDavid ZwirnerとHauser and Wirthが入り、建築家でアートコレクターのウィリアム・リム氏が設計したアート高層ビルのH Queen'sは、アジアトップのアート拠点としての香港を象徴する最新開発プロジェクトである。地元のアートを探



ったサングラスを試したいなら、ビーチには20分弱で行ける。タクシーに飛び乗り、「Repulse Bay ゴイ（またはムゴイ）」と言えばいい。A Work of SubstanceがデザインするKhromisは、自社ブランドの販売とアイウェア着用者へのカスタムサービスを提供している。また香港に来る予定があって、45分の時間があるのなら、ブティック内にあるコーヒーバーでフラットホワイトをピ

によるセメント割れを防ぐこの香港特有の実用的な建築手法を参考にしている。Uweはベテランホテルシェフのユー・ウィ・オポセンスキー氏が手掛けた最初のソーホー地区レストランである。ドイツ人の同シェフが持つマングリンオリエンタルの元総料理長という輝かしい肩書きにもかかわらず、彼のこの20席の高級レストランは、気取りのないリラックスしたムードがある。

訪れる
場所



すなら、Tai Kwun Centre for Heritage and Artsに立ち寄ろう。その時は、歩行者専用のChancery Laneまで足を伸ばして、軒並ぶ地元のギャラリーや魅力あふれるLok Man Rare Booksをのぞいてみよう。

16:00

眩しすぎる香港ではサングラスが必要

引き続き西に行き、Tai Ping Shan Streetへ向かうと、静かな道が交わり合う中にある隠れ家的なカフェや古い香港風の低層建物(唐楼)が見えてくる。Khromisは最近このエリアに仲間入りしたブティック。サングラスを忘れてたり、新しいものが欲しいなら立ち寄ってみよう。そして買



ックアップしよう。後はスタッフが丁寧に手順を説明してくれる。アイウェアは2か月で仕上がるので、今度香港に来た時にピックアップできる。

19:30

ディナーで、ゆったりとくつろごう

さあディナーの時間、Tai Ping Shan Streetをブラブラと歩いてHollywood Roadへ戻ろう。道の途中、古い建物の外壁を飾っている色とりどりのモザイクタイルを見ておこう。あちらこちらにあるが、もし見つからなくても心配無用。緑色の外観をしたフレンチレストランのUweが、湿気

22:00

建築を楽しみながら、楽しい夜を

1日をいい気分で締めくくるにはPopinjays。新しくオープンしたルーフトップバーで、高層ビル街の香港では思いのほか珍しい。1960年代に最先端であった中環にある建物を、336部屋のホテルとして保存再生させたThe Murrayは、インテリアデザインをFoster and Partnersが手掛け、25階からは香港公園と植物園、そして同社の香港最初のプロジェクトであったHSBCビルが一望できる。ラストオーダーは1:00。アーネスト・ヘミングウェイのようなスタミナがあるのなら、料飲業のベテラントリオがヘミングウェイをテーマにして作ったカクテルバーThe Old Man（老人と海）へ行こう。明日はエアポートエクスプレスで空港まで25分足らずで到着する。時間はまだたっぷりある。



より広い視野で

香港の音楽祭、アートフェアや文化は過去10年で変化を遂げ、注目を集めるのはクリエイティブなビジネス。



Integrated Fine Arts Solutions (IFAS)

取扱いに注意
—アート事業—

2008年、IFASが創業したときは、香港には美術品の保管や取扱いを行う会社はごくわずかしかなかったが、今ではおよそ20社が存在する。IFAS社長トルステン・ヘンドリックス氏は、後にArt Basel Hong Kongとして姿を変える香港初の国際芸術祭を訪れるため香港にきた。「当時は特に大きな収集物はなく、国際ギャラリーもありませんでした」と言う。同氏はドイツ出身で、上海市の金融関係の仕事から転職して今の仕事に就いた。

顧客に美術品を見せながら、倉庫でほとんどの時間を過ごす。「会社のすべての人間は、オフィスや倉庫を問わず、日常的に美術品に触れています」と語り、現場主義の事業であることを強調する。IFASは葵涌に2施設を持つが、新たなスペースを探している。

意外に感じるかもしれないが、個人収集家はIFAS事業のわずか10%くらいに過ぎない。大半は、積極的に美術収集をしたり、展示した

- (1) アンソニー・ゴームリー氏の人体像を設置
- (2) IFASスタッフの作業風景 (3) IFAS社長トルステン・ヘンドリックス氏 (4) Magnetic AsiaのCEO マイク・ヒル氏 (5) Central Harbourfront Event Space (6) Coffee Academicsのオーナー、ジェニファー・リュウ氏 (7) 友好的な雰囲気 (8) Eaton Hong Kongの厨房



りする個人ギャラリーや企業が占める。2015年、IFASは英国人アーティストのリチャード・ウィルソン氏が制作したバスの彫刻を引上げ、ペニンシュラホテルの屋上に設置した。屋外の公共場所での展示は今や一般的になってきている。

香港初のHarbour Arts Sculpture Parkが今年初めに開催され、IFASは英国人彫刻家アンソニー・ゴームリー氏の作品を設置した。IFASは、2015年に同氏が香港でアジアデビューを遂げた展示ツアー『Event Horizon』でも設置を行い、31体のアーティスト自身の人体像を、中環と金鐘の屋上から見下ろすように展示した。「素晴らしい出来栄でした」と当時を振り返って語るヘンドリックス氏。裏方作業の仕事が、こんなに大きく世の中に出て注目を集めるのは稀なことだから、同氏の興奮も理解ができる。

Magnetic Asia

音楽の音量を上げる
—イベント管理業—

マイク・ヒル氏の名刺にはMagnetic AsiaのCEOと書かれているかもしれないが、同氏の香港での顔は、音楽祭Clockenflapを仕掛けるジェイ・フォスター氏とジャスティン・スウィーティング氏との3人組の中の1人だ。この毎年の音楽祭は2008年にスタートし、過去10年間でその名声を上げて、規模も大きくなった。2017年にはチケットを6万枚売り上げ、Central Harbourfront Event Space（中環海滨活動空間）を人で埋め尽くした。Clockenflapは、Magnetic Asiaという大きなテントの下で、オンラインのチケットセールスやSónarなどの欧州の音楽祭を香港に招致して業容を広げている。「この業界全体に新しい時代が到来しています」と、1999年に英国から香港に来たヒル氏は言い、「私たちはまだ音楽祭シーンでは初期段階です」と続ける。



4



5

Eaton Hotels

公共建築
—サービス業—

高級ホテルが新世代の宿泊客を迎える準備の中、キャサリン・ロー氏はLangham Hospitality Groupに新しい風を吹き込む。系列会社Eaton Hotelsを率いる家族の3代目である同氏の焦点はベルベットのカーテンではなく、価値である。ワシントン州への海外展開から始まり、今年初めにThe Hong Kongがオープンした。



8

Coffee Academics

カフェインでつながるチェーン
—料飲業—

建築士として経験を積んだジェニファー・リュウ氏は、新しく得た知識の大半を9つの拠点それぞれが個性を持つコーヒーチェーンを作ることに費やす。「香港以外では成功できないビジネスでした」と、シンガポールでも店舗運営するリュウ氏は言う。現在、同氏はこのチェーンを中国で展開することを目指している。深セン市の2番目の直販店が、北京市にあるCoffee Academicsの初店舗につながる日も遠くない。



6

ビジネス知識

「アジア太平洋地域の初店舗として香港を選びました。なぜなら小売業の重要都市だからです。壁の反対側はたまたま、人気のセルフィースポットでした」

デザイン業
アンティ・ヒロボ
ネン氏
Tom Dixon部長
(アジア)



7

アレックス・リー氏に質問

マンダリンオリエンタル
財務部長
—サービス業—



運動好きのアレックス・リー氏は、香港で最も名高いホテルの財務部長を務める中、6:00がトレーニングするのに最適な時間だと決めたが、スケジュールは上手いっているようだ。

早起に起きたときは、どこでトレーニングを？

どこでもします。上環からQueen Mary Hospitalまでランニングしたり、Plover Coveをサイクリングしたり、Hong Kong Cricket ClubやDeep Water Bayでスイミングをしたり。

香港の施設はどう思いますか？

素晴らしいですが、ジムはあまり好きではないのです。屋外でするトレーニングの清々しさがない。必要なのはスニーカーを置いて外を走るだけ。ビーチ、森の道、きれいに舗装された道、すべてが家から30分以内にある町が他にあるでしょうか？

大好きな秘密のフィットネススポットは？

秘密ではないですが、The Twinsに登るのが好きです。千段の階段は、やりがいがあります。South Bayは隠れた宝石で、特にRepulse Bayを泳いで往復するのが最高です。サイクリングとなると、空港の滑走路に沿ってのサイクリング、飛行機が離陸する100メートル以内の場所を走れますよ。



HK / PART B
 ライフスタイル/ 娯楽

創作クラス

重要会議や緊急電話会議のセットアップ
 が終わったら、香港にある無数の文化的
 体験でビジネスのひらめきを見つけよう。

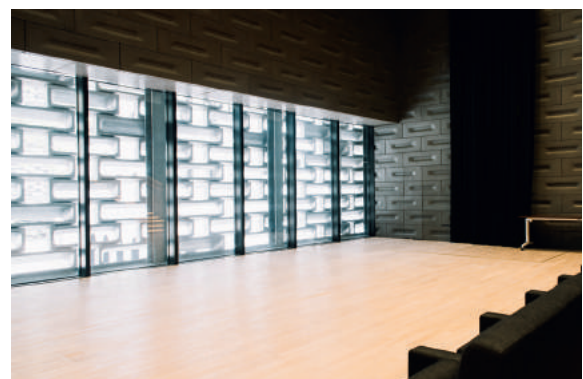
Tai Kwun Centre for Heritage and Arts

保存再生して、新しい命を吹き込む
 — イベントスペース —

12年の歳月をかけ、Tai Kwun Centre for Heritage and Arts は、高層ビルが立ち並ぶ中環と飲食店が軒を連ねるソーホー地区の真ん中にオープンした。かつては刑務所や治安判事裁判所、警察本部であったこの跡地には、増築された美しい建造物が2つ（スイスの設計事務所Herzog & de Meuronの厚意により）、現代アートギャラリーと舞台芸術用の劇場として、この英国植民地時代のビルの上に浮かぶ。

広東語の名前を選んだことが、地域コミュニティへのアピールを目指すこの施設の姿勢を示している。『tai kwun』は大きな駅という意味の広東語で、以前の愛称だ。「香港社会が大切にすることも、そして海外の観光客を惹きつけるものを作りたい」と館長のティム・カルニン氏は言う。オーストラリア人の同氏は昨年、Sydney Opera Houseから加わり、以前は香港フィルハーモニー管弦楽団の責任者であった。それゆえに、香港のアーティストがプログラムに目立つ。

香港は芸術施設において躍進を続ける。来年にはHong Kong Museum of Artがリニューアルオープンし、Herzog & de Meuronが設計を手掛ける現代アート美術館のM+も完成予定だ。Tai Kwunの立ち位置はどこになるのだろうか？ Tai Kwunは、現代アート展覧会（次ページのトビアス・バーガー氏に質問を参照）とアーティスト・イン・レジデンス・プログラムと並行して、歴史遺産の展示会、アーティストブックの図書館、屋外シネマなども呼び物とする。



- (1) Tai Kwun Centre for Heritage and Arts
- (2) 開かれたドア (3) 館長のティム・カルニン氏
- (4) 以前の姿の名残 (5) 外観の細部 (6) 内側からの眺め
- (7) 頭上のアート (8) MTRの管理建築士アンドリュース・ミード氏 (9) 公共彫刻物 (10) Fauve Radioが裏にあるブティック (11) Mahkaの創業者
- (12) オンエア中

トビアス・バーガー氏に質問

Tai Kwun
Contemporary
—アートギャラリー—



「高さ7メートルのギャラリーを香港の真ん中に置くなって聞いたことがない」とトビアス・バーガー氏は言う。同氏はTai Kwun Centre for Heritage and ArtsにあるHerzog & de Meuronが設計した現代アートギャラリーの展示会やイベントのスケジュールを埋める仕事を受けている。M+から加わったドイツ人の同氏は、影響力のあるアートギャラリーPara Siteなどでも勤務経験がある。

M+に並ぶTai Kwun

Contemporaryをどのように予想しますか？

概念上は、ロンドンのサーペンタインとテート・ギャラリー、もしくはニューヨークのニューミュージアムとMoMAとあったところでしょうか。大切なのは、移動展示会のピットストップにはなりたくないで、開催する展示会は地元向けです。

香港のアーティストにとってTai Kwunとは？

すべてが万全でなければならぬ美術館と、販売だけが目標の商業ギャラリーの真ん中に位置するアーティストには、Tai Kwunは新たなチャンスとなります。レジデンスも、地元と海外アーティストの両方が同様に利用可能になります。通常、レジデンスは招聘されたアーティストのみですが、香港ではアーティストが大型の作品を制作するスペースがありません。Tai Kwunはそのためのスペースを提供します。

展示会を開くアーティストはどのように選びますか？

共同で進めていきます。我々だけで管理するのではなく、他の施設を招待してここで展示会を開いてもらいます。オープン時の2つの展示会は、香港の2つの施設、Spring WorkshopとChinese University of Hong Kongと行いました。

次の予定は？

次の展示会は、北京市のUCCAと、フランクフルトMMK元館長のスザンヌ・ギャエンシマー氏が統括します。地元の小さな施設、Rooftop InstituteとShort Hair Studioの2つと、公開オーディションも行うので、小さいものから海外のものといったミックスになります。2年に1度、著名な展示会を行うつもりで、最初は来年5月です。



7 8



9

Hong Kong Jockey Club

文化は楽勝
—投資家—

Tai Kwunは大きな賭けである。なぜなら香港史上でも最も高額な歴史的建造物の修復だからだ。この豪華なプロジェクトの資金援助をしたのは、慈善団体のHong Kong Jockey Club。この名高い団体は1884年に設立され、今でも週に2回、競馬を行っている。この非営利団体は、香港最大の後援者で、昨年はスポーツプロジェクトから青少年育成に至る幅広い分野において、216か所に支援を行った。過去最大はHong Kong Palace Museum建設に向けた35億香港ドル（3億8100万ユーロ）で、同施設は2022年にWest Kowloon Cultural Districtでオープン予定である。

シティライフ

「香港に文化の渇きはない。パフォーマンスを毎日観ることができる」

アート
アリソン・フライドマン氏
美術監督、舞台芸術
West Kowloon
Cultural District



10

Fauve Radio

スタイルと中味
—メディア—

DJのローメイン・Fxx氏はネットラジオ局を昨年立ち上げた。スタジオは上環にあるブティックMahkaの裏だ。今や、来訪中の音楽プロデューサーやDJ達の間でポピュラーなスポットになり、立ち寄ってはラジオに出演する。

ラジオホストとFauveの友人たちは定期的にMahkaで集まり、リスナーを増やしたり、ブティックにお客さんと呼んだりしている。「DJと音楽好きが集まるコミュニティを作っている」とFxxは言う。



12



11

HK

マーケティング/香港

咲き誇る ビジネス

花とアイデアを使って、
注目を集める香港ビジネス。

Openings

花のパワー
—小売・サービス業—

レストラン業と小売業は香港では、多種多様な色で花盛りだ。米国のハンバーガーチェーン Shake Shack が、香港最初の直売店をIFC ショッピングモールでオープンさせたとき、お祝いのメッセージが書かれた木のスタンドについたブーケを受け取った。開店やリニューアルオープンにサプライヤー、家主、友人から贈られる慣習で、開店ブーケと呼ばれ、大抵の場合、店の前を覆いつくしている。

同じくIFC内に入店している Flannel Flowers (店の名前由来は、生地の名前ではなく、オーストラリアに咲くファジーな花の名前である) が Shake Shack のブーケを依頼された。このようなブーケは、高価なもので5000香港ドル (550ユーロ) もするが、オーナーのバトリシア・コー氏は、この慣習がなくなるような気配はないと話す。シンガポール出身の同氏は1987年、銀行で働くため初めて香港へ来た。花は、日本、エクアドル、オランダから調達している。

高級な花屋が、香港のあちらこちらでオープンする中、銅鑼湾に2店舗目を持つコー氏は、



3店舗目を九龍で探している。九龍の Prince Edward は、古くからのフラワーマーケットがある場所だ。フラワーデザイナーであり Anot Studio の共同創業者であるマック氏は、店舗をナチュラルに飾る新鮮な花を求めて週に3~4回来店する。同氏は共同経営者のチャン氏と、2016年、Anot Studio を Kowloon Bay に設立した。顧客には、Tom Dixon、BoConcept、Céline、Mulberry といった大手が並ぶ。

Flannel Flowers のコー氏は、静かな夏の期間を活用して店のイメージのリフレッシュを図るため、IFC の店舗を改装中だ。慣習では、リニューアルオープンの際は、モールの管理事務所からブーケを受け取ることになるが、大きなブーケは来年迎える Flannel Flowers の25周年までお預けである。「香港は私にとって、本当に素晴らしい場所です」というコー氏。「世界で一番フリーな場所です」

Ding dings

動くマーケティング
—交通機関—

香港の2階建てトラムにラッピング広告をつけるには、4人と4時間が必要だ。今や交通機関会社の収益の約半分は、香港で一番目を引く(動く) 掲示広告から得られる。『ding dings』として親しまれる164台は、香港島の北側を走る。需要はクリスマスに向けてピークを迎える。

「広告主は我々を高級だと考えていて、我々もそれを強調したいのです」と社長のシビル・オーバン氏は語る。同氏はパリから移住し、ding ding で Whitty Street まで通勤する。昨年 Moncler は、複数のトラムにラッピング広告をつけ、6台目のインテリアを改装して宣伝ツアーに使った。このような贅沢なタイアップが皮肉に見えるのは、114年の歴史を持つトラムが香港で一番安い交通手段だからかもしれない。トラムの運賃は、最近の値上げ後でも、2.60香港ドル (0.30ユーロ) なのである。トラムは毎年7300万人の乗客を運んでいるが、このうちの観光客はわずか10%のみで、結局は、600もの有力企業がこういったトラムの存在価値を知っている。最近のブランド刷新は、香港島に残された唯一の工場で設計と製造を行った新しいトラムが引き立てている。

